

# 平成27年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

### 近畿ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題1 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 登録基幹技能者は、施工管理技術者に対して、適切な施工方法や作業手順についての提案・調整を行うことが出来るものである。
2. 登録基幹技能者は、一般の技能者に対して効率的な指揮指導を行うことが出来るものである。
3. (一社)日本建設業連合会団体では、登録基幹技能者の教育が進められている。
4. 登録基幹技能者には、現場施工に当たっての優れた技能に加えて、段取り・マネジメントに関する知識も求められている。

**問題2 登録基幹技能者制度の概要に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設工事において生産性の向上を果たす上級職長等の役割が重要である。
2. 建設工事において、品質、コスト、安全面で質の高い施工を確保するためには、上級職長等の役割が重要である。
3. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つマネジメント能力に優れた技能者である。
4. 登録基幹技能者は、元請の施工管理業務、例えば施工現場の写真等の整理や基準墨出し等の補佐をすることが期待されている。

**問題3 技能労働者の発展段階の各職階を示したものに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 上級技能者
2. 中級技能者
3. 初心者
4. 上級職長または登録基幹技能者

問題4 平成26年6月4日施行の改正品確法に基づき、「発注関係事務の運用に関する指針」の中で、総合評価方式における施工能力の評価項目の設定に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 競争参加者や当該工事に配置が予定される技術者の年齢や性格等を適切に評価項目に設定する。
2. 必要に応じて災害時の工事実施体制の確保の状況等を評価項目に設定する。
3. 近隣地域での施工実績などの企業の地域の精通度を評価項目に設定する。
4. 登録基幹技能者等の資格の保有等を評価項目に設定する。

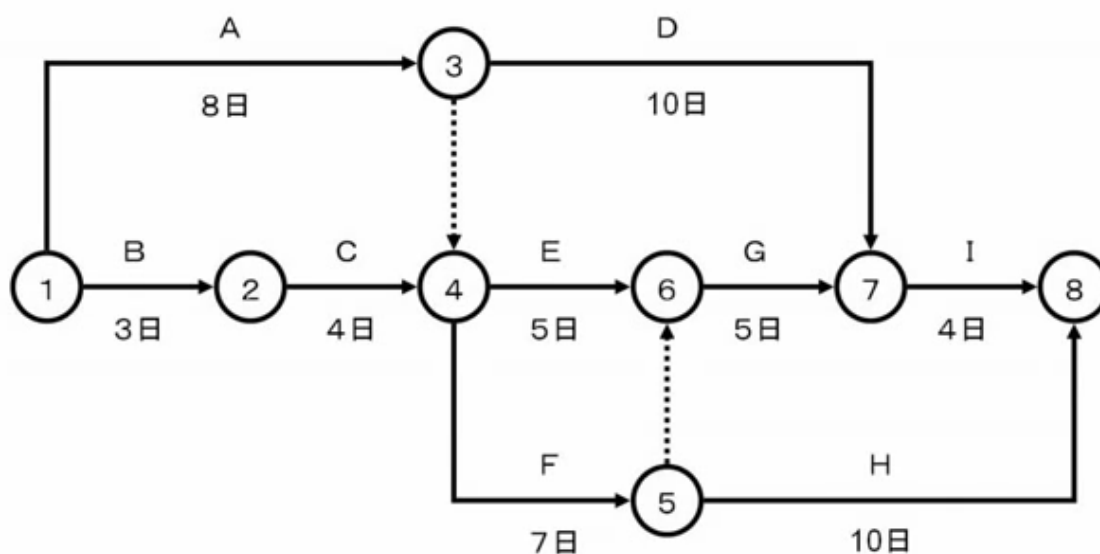
問題5 国・都道府県の公共工事における評価・活用状況における発注者の声に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 公共工事の品質確保やインフラの維持管理のため、中長期的な担い手が求められる中、登録基幹技能者制度は技能労働者のレベルアップにつながる。
2. 登録基幹技能者となった技能労働者が若手の目標となり、担い手の育成にも寄与する。
3. 登録基幹技能者制度のさらなる普及により認定者が増加することで、さらに地域差等が生まれ、このことが施工能力を評価する有効な評価指標となる。
4. 技能者の中で登録基幹技能者を目指す環境を整える観点から、本制度の認知度向上は、優良な技能者を育成する上で有効と考えられる。

問題6 OJT教育における指導方法に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 知識と事例と体験を結集して教える
2. 仕事の指示・命令は作業終了後に教える
3. 自分本位の仕事ぶりからお客様本位になるように指導をする
4. 覚えたい気持ちにさせ、知っていることから知らないことへ進む

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、ネットワーク式工程表である。
2. この工程表のクリティカルパスは、A-F-Hである。
3. このプロジェクトの所要日数（工期）は、25日である。
4. この工程表における作業Eのトータルフロートは、2日である。

問題8 登録基幹技能者の関連条文に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設業法（抄）
2. 建設工事標準下請契約約款
3. 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（抄）
4. 都市計画法（抄）

問題9 建設工事標準下請契約約款に記載されている内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 工事関係者に関する措置請求
2. 基準墨の検査
3. 監督員の立会い及び工事記録の整備
4. 支給材料及び貸与品

問題10 ブレインストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ブレインストーミングは、アレキサンダーによって考案された検査方式のひとつである。
2. ブレインストーミングは、集団思考、集団発想法、課題抽出ともいう。
3. ブレインストーミングは、集団でアイデアを出し合うことによって相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法である。
4. 人数に制限はないが、5-7名、場合によっては10名程度が好ましく、議題は予め周知しておくことが望ましい。

問題11 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、  
2. その境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。これを4. モイスチャームーブメントという。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. モイスチャームーブメント

問題12 仕様書等の組み合わせに関して 最も不適当なものはどれか。

1. 特記仕様書 — 標準となる工事の仕様
2. 左官施工法 2013 — (一社)日本左官業組合連合会編
3. 建築工事標準仕様書・同解説 JASS 15 (左官工事) — (一社)日本建築学会編
4. 公共建築工事標準仕様書 — 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

問題13 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水大 — はく離・ひび割れ — 吸水の適正化をはかる。
2. 細かい砂 — ふけ — 粗い砂を混ぜる。
3. さび止めしない鉄部 — さび発生(せっこうプラスター) — さび止めを行う。
4. 塗り厚の不同 — ひび割れ — つけ送りをを行う。

問題 14 ラスと各種構造および構法の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

表 JASS 15 2007

◎：望ましい組み合わせ ○：適用可能な組み合わせ △：条件により適用が可能な組み合わせ ×：好ましくない組み合わせ						
	種類 (700g/m <sup>2</sup> 以上)	木造			鉄骨造	
		通気構法 (二層下地構法)、通気構法以外 (直張り工法)		通気構法 (単層下地構法)		
		内装	外装	外装	内装	外装
1.	平ラス	◎	×	×	×	×
2.	波形ラス	○	◎	×	×	×
3.	防水紙付きリブラス	○	△	×	○	○
4.	リブラス	○	△	△	◎	×

問題 15 住宅瑕疵担保責任保険・設計施工基準に対応した外壁の防水に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 通気構法の外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111(透湿防水シート)に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものとする。
2. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 90mm 以上とする。
3. 直張りの防水紙は、JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト 430 または透湿防水シートとする。
4. 外壁開口部の周囲は、防水テープを用い防水紙を密着させることとする。

問題 16 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力50～150N/mm <sup>2</sup> 、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが少なく、施工管理が比較的容易であり、下階への水対策を検討する必要がある。
2.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクグラインダーによって、コンクリート表面の目粗しを行い、表面に付着した粉塵を水洗いにより除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は複雑であり、埃や音の発生がある。施工のばらつきが少ないが、見本などを作製し管理することが重要である。
3.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	デッキブラシあるいは、ワイヤブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、施工管理が曖昧となりやすい。水洗いを併用する。
4.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面に凹凸を付与し、それがセメントモルタルの塗りつけ時に食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 17 床の左官工事に関する記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 防水モルタルは、防水性のあるセメントモルタル塗りで仕上げることである。
2. シーリングとは、水や空気を完全に密封することである。
3. セルフレベリング材塗りの設計塗り厚は、20mmとし、5mm未満とする。
4. モルタル防水の施工は、防水工事業の許可が必要である。

**問題 18 セメントモルタルの表面仕上げの記述に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. タイルの接着剤張りの下地は、刷毛引き仕上げにする。
2. セメントモルタルによるタイル張りの下地は、木鏝仕上げにする。
3. 壁紙張り下地、防水下地は、金鏝仕上げにする。
4. 吹付け仕上げのセメントモルタル下地は、刷毛引きで粗面にする。

**問題 19 施工計画のおおまかな流れに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 施工計画立案にあたり、まず発注者との契約条件、設計図書などを十分に理解するとともに、現場条件などについて事前調査を行う。
2. 主要工種の基本計画に入る前に、品質管理計画、安全管理計画などの管理計画を作成する。
3. 詳細な施工計画を作成する前に、主要工種について施工法や施工手順などの基本計画を作成する。
4. 基本計画作成後に、各工種の施工機械の選定や人員配置などの詳細な検討を行う。

**問題 20 基本計画における基本方針に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 全体工期、全体工費に及ぼす影響の大きい工種を優先して考える。
2. 現場の制約等を考慮して資機材、労働力などの円滑な回転を図る。
3. 不具合が発生した場合は、全体のバランスを考え、作業を集中させて調整する。
4. 繰り返し作業により習熟を図り、効率を高める。

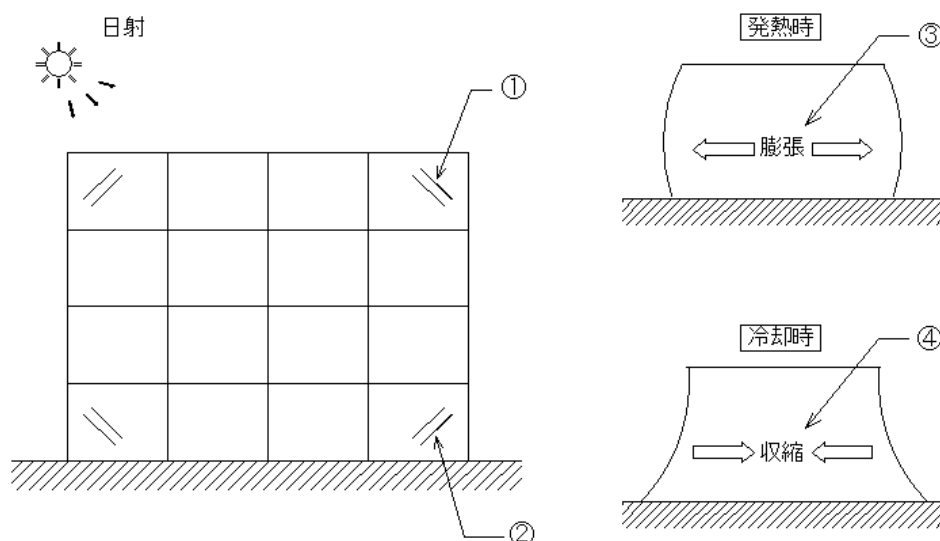
**問題 21 原価管理の要点に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 大量に資機材を購入する場合、海外からの安価な輸入品などにも目を向ける。
2. 物価の動静に常に目を向ける。
3. 次期契約の参考にするために、稼働している工種の単価を把握する。
4. その現場での調達量の多いものについては、できるだけ早期に一括契約する。



問題 2 2 下図のような鉄筋コンクリート造の建物に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートが硬化する際、コンクリート内部が③のように熱膨張し、低温の表面部が引っ張られてクラックを発生させる。
2. 下階は乾燥収縮で縮もうとするが、基礎等に拘束されているため、②のように逆ハの字型にクラックが発生しやすい。
3. 膨張して固まったコンクリートが冷却する際、基礎等で拘束されると④のように収縮し、クラックを発生させる。
4. 建物の上階は、日射を受けて収縮しやすく、内側に縮もうとする。よって、①のように「ハの字型」にクラックが発生しやすい。



問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 労働者が通勤途上で負傷、疾病、障害、死亡した災害は労働災害にならない。
2. わが国の建設業における近年の死亡者数は、年に 350 人前後である。
3. 建設工事全体の死亡事故の型別でみると、墜落による事故が 45%と圧倒的に多い。
4. 脚立の墜落高さは 2m 以下と高くはないが、墜落時に頭を打って死亡するケースが多い。

**問題 2 4** 法で定められた建設現場における安全管理について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 複数業者が混在する現場の 1 次下請けや 2 次下請けの業者は、安全衛生責任者を選任する必要がある。
2. 型枠支保工の組立は作業主任者の配置を必要としない作業である。
3. 労働者数の合計が 70 人で複数業者が混在する現場では、統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
4. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努め、廃棄物は決められた場所に捨てることを徹底する必要がある。

**問題 2 5** 各種労働災害防止対策について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 既存建築物は石綿が使用されているものも多く、その建築物の解体工事では石綿による健康障害防止対策を講じる必要がある。
2. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数：湿球黒球温度）値を使用することが有効である。
3. 居ながらリフォーム工事では、電気やガスなどが既に設置されているので安全に作業が行われ易い。
4. 高さ 2m 以上の所で 足場作業や鉄骨作業などを行う場合、作業床を設置しなければならない。これが困難な場合は、落下防止ネットを張り、作業員に安全帯を使用させる必要がある。